

委員会視察成果報告書

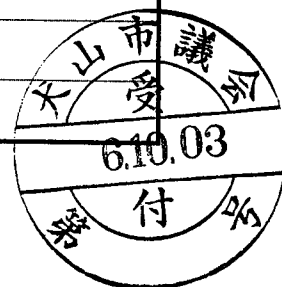
6年 10月 3日

犬山市議会議長

議員名 鈴木伸太郎

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	6年 10月 1日(火) ～ 6年 10月 2日(水) (1 泊 2 日)
(2) 視 察 地	①石川県加賀市 ②富山県南砺市
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (総務 委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	別紙参照
	(5) 犬 山 市 に 対する提言



総務委員会 行政調査報告書 令和6年10月1日(火)～10月2日(水)

移住定住の取組を学ぶため、石川県加賀市・富山県南砺市を訪問、両市の施策を学んだ。

① 石川県加賀市（人口 62 千人、面積 305Km²）

山代、山中、片山津などの著名温泉を有する都市。近郊の小松、金沢の通勤圏でもある。

- ・移住定住については、「ぶなの森」という企業に業務を委託（8、000千円/年）している。展示会や催事もぶなの森と連携して実施。
- ・ポータルサイト、マッチングアプリ「スマウト」等では、移住希望者は60千人だが、まだ実績にはあまりつながっていない。相談者は首都圏、次いで関西の順に多い。
- ・移住定住フェア実績、7月大阪、9月東京、相談件数毎回10組程度。10月名古屋、年末までに大阪東京を予定。
- ・20代30代は経験を積んでスキルアップ、伝統工芸、農業等、新たなチャレンジの志向。山中漆器の学校あり。九谷焼は職人を紹介、「弟子入り」もあり。
- ・シニア世代は第二の人生、スローライフなどを目的とする傾向あり。
- ・中山間地への移住はシニア世代が多く、畑付き戸建て（賃貸）のニーズ高い。
- ・子育て支援、PR 動画 CM、他課と連携。
- ・R4、R5 年と、転入者が転出者に迫る勢い。外国人とのこと。おそらく温泉旅館。
- ・温泉旅館従業員、人材不足深刻。いいから雇用したいという状況。

犬山市への提言

- ・東京等の展示会では、観光フェアかと思うほど、各自治体の観光資源を PR している。たしかにきっかけづくりとしては観光資源の PR は大切だが、「そこで生計を立てていく」というとても大切な問題にも、自治体としてしっかり取り組んでいることを PR してほしい。
- ・犬山は大都市金沢で産業・仕事に恵まれている。関東比較すれば海山にも近く、大規模スーパーや医療機関も近隣に多く立地し、市内に自然が残り、暮らしていくには十分な機能を持ち合わせている。そこは他の地方都市より優位性がある。
- ・子育てで PR できる強みを新たに準備すべき。歴史・自然・保育教育環境・・・近隣市と明確な差別化と真似できないポイントづくりがあると良い。
- ・加賀市ではターゲットを首都圏関西圏としている。犬山は近隣市町の住民をターゲットにしている節があるが、それでは名古屋に近い自治体に負ける。
- ・加賀市のように首都圏関西圏と、名古屋近郊ならば犬山と対極にあるエリア（緑・天白・守山等名古屋市内の中でも交通不便な地域、海拔が低く災害リスクの高い地域等）にターゲットを絞るべき。

- ・単純に人口を増やすのであれば、外国人を呼ぶのは効果が早いと思われるが、日本語教育はじめ、転入後のコストを考えると、どうか？ バランス感覚が必要。

ライドシェア事例研究

- ・市役所公用車で活用しているEV車（日産リーフ5台）を、平日夜間と休日にレンタカーとして貸している事例を体験。
- ・実際の運用は「加賀市総合サービス(株)」、車両は市がリースで借りている。
- ・加賀総合サービス(株)は、加賀市の一部業務の指定管理・委託、給食業務に人材派遣等している会社。
- ・利用実績は低そう。
- ・申し込みが煩雑（最初だけか？）
- ・知用料金は大手レンタカー会社よりも安い。
- ・実際に2台レンタルし、加賀市内の限界集落「杉水」を訪問（市街地から30分）。
- ・限界集落ではあるが、一般社団法人が設立され、地域の環境保全に取り組んでいる。
- ・重伝建地区に、土日のみ営業の店舗が数件、民宿も数件存在するが、訪問時には人は不在。数百メートル離れた場所で手刈りで稲刈りする農家が2名、我々の訪問を不思議そうに眺めていた。

犬山市への提言

- ・市が環境課題に取り組んでいるというPRに利用している向きがある。
- ・平日が夜間～早朝だけでは厳しい。
- ・多様な「自治体ライドシェア」の取り組みの一つとして、研究していく価値はある。
- ・犬山市内にも人口減少が課題の中山間地があり、杉水のような限界集落になる前に、このような取り組みをすることで、地域を活性化できる可能性を感じた。
- ・犬山の場合、高速道路はじめ主要道からも近いエリアに過疎地域があり、仕掛けていけば活性化に繋がる予感。

② 富山県南砺市（人口47千人、面積668Km²）

富山県南西端、広い市域に、世界遺産合掌造り、利賀村、井波などの歴史文化遺産を数多く有する。山村ではあるが金沢、砺波、高岡等への通勤者も多い。

- ・移住プロモーションについては、加賀市同様の策を実施している模様。
- ・移住希望者も加賀市同様の傾向。
- ・移住定住に関しての補助制度が多いのが特徴。近隣自治体も南砺市の後追いで同様に制

度を充実させてきている。富山県内ではライバルとの差別化は難しいか？

- ・「南砺みらい支援センター」が、移住定住のさまざまなサポートをしている。移住定住に関しては、毎月のように市内各地で相談会を実施、お試しハウス、移住後の地域とのつながりづくりなどをサポート。
- ・「南砺みらい支援センター」は、犬山市のコミュニティ、協議体、あんしん相談センター、協働プラザなどの機能を集約し、横ぐしを刺して行政の縦割りを打破する何でも屋的な組織。
- ・定住者への仕事のあっせんは特になし。
- ・南砺市はユネスコ世界遺産はじめ、歴史遺産の宝庫。それをアピールしつつ、「田舎暮らしの楽しさを訴えている印象、
- ・移住者のターゲットは首都圏、ライバルは近隣市。近隣自治体同士の奪い合いはしない、とのこと。（おそらく、犬山同様、県境の自治体はそのあたりは弱いかな？）

犬山市への提言

- ・太平洋側に住むものとしては、雪の心配さえなければ、とても暮らしやすい街に感じた。
- ・「南砺みらいサポートセンター」という横断的団体のサポートを犬山でもできれば効果的。
- ・歴史文化などの観光資源は、近隣市町も含めれば、南砺市の方が魅力的に映るかもしれない。名古屋近郊の「強み」をより一層アピールすることが大切。
- ・本気で「終の棲家」として移住を考えている都会人に向けたアピールが大切。
- ・IT 環境整備は必須。

以上